

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会
第 49 回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2025 年 2 月 14 日（金）9:00～11:50

2. 場 所 WebEX による Web 会議

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）村上主査（東大），松本副主査（MRI），倉本幹事（NEL），
鈴木委員（原安進），竹内委員（東芝 ESS），竹中委員（MHI NS エンジ），
田邊委員（東電 HD），中村委員（原電），古田委員（関電），
野口委員（横浜国立大：途中より出席）廣川委員（日立 GE），
山田委員（中部電）

（12 名）

（常時参加者）安達（NRA），岩谷（電中研），浦野（原電），大家・岸根（NEL），小野寺（MRI），
粥川・安井（北海道電），久保（MHI），黒野（中部電），
下白石（小西代理；九州電），高橋（東電 HD），武内（四国電），
田中（東北電），沼田（関電），幅（電源開発），東山（北陸電），
山本（原燃）

（18 名）

（傍聴者）小池（東北電）

（1 名）

4. 配布資料

S3SC49-1 第 48 回統合的安全性向上分科会議事録（案）

S3SC49-2 安全性向上評価制度に係る関係規則・ガイドの改正案及び意見公募の実施
（令和 6 年度第 55 回原子力規制委員会 資料 2）

S3SC49-3 【開催案内】PSR⁺標準講習会（2025/2/7 開催）

S3SC49-4-1 IRIDM 標準の改定方針・検討ポイントとその対応方針

S3SC49-4-2 ISO31000 と照らした IRIDM 標準の構成変更検討

S3SC49-4-3 IRIDM 標準改定 分科会レビューコメント対応表

S3SC49-4-4 IRIDM 標準改定案（本体）2024/2/14 版

S3SC49-4-5 IRIDM 標準改定案（附属書（参考）・解説の構成・内容案）

S3SC49-5 統合的安全性向上分科会検討スケジュール

参考資料：

S3SC49-参考 1 統合的安全性向上分科会名簿

5. 議事内容

(1) 出席者確認

倉本幹事より、議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 11 名（代理出席を含む）が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(2) 資料確認

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

(3) 前回議事録確認（S3SC49-1）

倉本幹事より、資料 S3SC49-1 を用いて、第 48 回分科会議事録（案）の確認を行い、一部の記載を修正、追加することとなった。

主な議論は以下の通り。

C：IRIDM 標準の標準名から「継続的な安全性向上のための」を削除し、「原子力発電所のリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準」に変更することに関しては、今後専門部会などにおいて標準名の変更説明をしっかりと行っていく必要がある、S3SC49-1 の 2 から 3 ページ目の記載に加え、前回分科会では意思決定にもいろいろなタイプのものが考えられるということを結構時間をかけて議論をしたので、その記載を加えることが良いと思う。

A：拝承。その趣旨を加えたものに修正する。

(4) 安全性向上評価制度に係る関係規則・ガイドの改正案及び意見公募の実施（S3SC49-2）

倉本幹事及び常時参加者より、資料 S3SC49-2 を用いて、安全性向上評価制度に係る関係規則・ガイドの改正案及び意見公募の実施の状況が説明され、分科会においても意見を提案することなどを確認した。

(5) PSR⁺標準講習会の開催（S3SC49-3）

倉本幹事より、資料 S3SC49-3 を用いて、2025/2/7 に開催された PSR⁺標準講習会の状況が説明された。

(6) IRIDM 標準改定 改定案の議論（S3SC49-4-1～4-5）

倉本幹事より、資料 S3SC49-4-1～4-5 を用いて IRIDM 標準改定に関する説明がなされた。

前回分科会にて提示・審議した改定方針及びその対応案に対して、IRIDM 検討チーム

での対応分担に従う分担箇所を中心として確認、検討した結果、多くの意見、コメントをあげていただいた。それらコメントへの一通りの対応案をまとめた改定標準案を元に、今回の分科会での審議を行った。

本日の審議への対応も含めて標準記載の精緻化を今後継続審議していくこととし、標準本体記載については今回改定案をベースとしたものにするにつき了解を得た。

主な議論は以下の通り。

<全体に関する議論>

C：主語述語の関係が分かりにくく、句点がたくさんあったりして、文章がやや難解である。読みやすい文章にしていく必要があると感じる。また、IRIDM がこれまでの事業者などでの活動とどういうところが違うのかというのが分かりにくい。

通常の業務においても、問題の認識→解決策案の抽出→効果や悪影響、コスト、時間等の分析・比較→最適な解決策を選択、という流れで取り組んでいると思い、通常の業務で実施していることと、この標準で規定していることのどこが違って、どこに新規性があるのかを示してもらえるとありがたい。

A：文章が読みにくいのは感じている。簡潔な文章にすることは重要。また、IRIDM の新規性についても、例示を含めてわかりやすくしたい。

C：“各ステップの作業を意思決定者、分析者、トップマネジメントのだれがやるのか明確にする。”という意見があったが、必ずしも“だれが”を特定しなくてもよいと考える。実作業においては、完全に役割が分化していないため。様々なことに対応できる IRIDM 標準を目指すのであれば、なおさら役割を決めなくてもよいのではと考える。

C：指針ではなく標準であるということを意識したまとめとすることがある。

C：統合的意思決定の“対象とする範囲”を明確にはしていないが、“プラントの安全に関するもの”というのが対象の中心となるとは考える。

C：自由度を効かせるためか、要求事項が具体性に欠ける印象をもつ。

C：リスク評価は定量評価を求めがちだが、今後3年間のリスクか、10年間のリスクかは、スコープの違いによって、全く異なる。どの範囲、どの期間に対して実施するのか、スコープの確定が安全性向上の検討に対して必須と考える。

また、リスク分析は意思決定を支援するが、リスク分析の結果で自動的に意思決定できるわけではないということも重要な点。

A：1点目のコメントであるスコーピングについては、現在の要件にて示していると考えているが、今の記載で十分か確認をお願いしたい。

2点目のリスク分析の結果で自動的に意思決定できるわけではないというのは、その通りで、多基準分析を入れていること、また、分析者と意思決定者を分けるということの二段構えで、ある程度、プロセス的な処理になっている。

<1章～3章に関する議論>

・特に追加の議論なし。

<4章～5章に関する議論>

C：文意を変えずに、記載内容をわかりやすくする必要がある。

C：「枠組みの実施」となっているが、「枠組みの活動」という言い方がよいのでは。

C：“組織”という言葉は、“会社”をイメージしてしまうが、ISO31000は、“組織”を

“会社”とは決めていない。標準記載全体を通じて，“組織”，“トップマネジメント”，“意思決定者”の使い分けについて整理が必要。

<6.1 章に関する議論>

- ・特に追加での議論なし。

<6.2 章に関する議論>

- C：コミュニケーションに関しては，標準委員会の安全検討会で ISO56000 を確認すべきとの意見が挙がっている。次回分科会以降で，ISO56000 の内容を紹介する。

<6.3 章, 6.4 章に関する議論>

- C：意思決定の理論からも，問題の設定と選択肢はセットで行っていくべきと考えるもの。ステップを分けた記載とすることでも良いが，選択肢を変更した場合には，もう一度問題の設定について確認するというステップや記載を行うなどがあってもよいと考える。

<6.5 章に関する議論>

- C：他章，他節にも関係することだが，規定（コード）は要求される状態，達成した状態の両方の記載を行うことが必要。要求される水準を，総括事項に記載し，具体的な実施内容は，総括事項より後で記載するとの統一的な方針で，さらに見直しをしていくことがよい。
- A：その意味からは，総括事項は，能動態ではなく受動態として記載していくことを考える。そのため，主語の記載も必要ないとする。

<6.6 章に関する議論>

- ・特に追加での議論なし。

<6.7 章に関する議論>

- C：対応方針として検討すべき事項として挙がっている“詳細な情報がない状態での意思決定”については，今後も引き続き議論を行う。
- C：図 6.7.1 のフローチャートが更新されておらず，更新する。

<6.8 章に関する議論>

- C：総括事項に記載している内容が詳細すぎる。先の方針に従った再考が必要。要求事項ではない部分については，注記として記載する等の工夫が必要。

<附属書，解説に関する議論>

- ・特に追加での議論なし。

<その他>

- C：たとえば，3 章記載は“注記”と言わず“注釈”とするなど，標準作成ルールに沿っていない部分があるため，対応が必要。
- C：次回の分科会において，標準作成のルールをあらためて説明，周知することも行う。

(7) 今後の予定 (S3SC49-5)

倉本幹事より，資料 S3SC49-5 を用いて，分科会の今後のスケジュールについて説明が

なされた。

次回分科会は、4月中旬を目途に開催することとし、日程は別途調整を行う。

IRIDM 標準改定に関しては、8月のシステム安全専門部会への中間報告を目指して審議を継続していく。

以 上